

副助詞クライの機能と用法

言語学・応用言語学専門分野 1LT13039Y 落合 里紗

1. はじめに

卒業論文「副助詞クライの機能と用法」は、従来のクライ用法の分類を見直し、特に「機能」に限定した新たな分類を考察したものである。

2. 従来の分類の問題点

益岡・田窪(1992)、森田(2007)、丹羽(1992)の分類において問題となる例文を以下に示した。

- (1) a. 毎日僕が起きるのと同じクライに父は仕事へと出かけていく。
- b. 別に1回クライなら構わないよ。
- c. 十時間ぐらいかかる [森田 2007:228] (数量)
- d. 十時くらいに帰る [森田 2007:228] (日時・順序)
- e. 少しぐらい痛くても我慢しろ。[森田 2007:230,(a)] (範囲)
- f. なあに、この位いの罰ならお安い御用だ。[石川達三『深海魚』] (低い基準)
- g. 雲一つないクライの快晴だ。
- h. 現時点でどのクライの人が集まっていますか？

従来の分類は、クライ以外の部分の表現や文全体のニュアンスに引っ張られたものが多く、クライそのものの用法の分類とは言い難い。また分類項目が極端に少ないせいで複数ある用法を網羅的に分類できないことや、逆に分類が細かすぎてその違いが曖昧になっていることも問題である。

3. 主張する分類

分類番号	用法	機能(概要)
1	程度	およその数量や大きさ、または何らかの状態について、その程度を曖昧にぼかして示す。
2	低評価	クライの直前に置かれた内容に対し、話し手が低く評価しているという意味合いを付与する。
3	限定	複数の候補の中からある事柄を限定的に選び、他の候補の可能性を否定する。

- (2) a. この教室なら 200人クライは入るだろう。
- b. これは江戸時代クライから受け継がれてきた伝統です。
- c. 彼の研究成果は素晴らしく、あの気難しそうな教授でさえ笑顔になったクライだ。
- d. 感心するクライ仕事熱心な人だ。

- (3) a. お米を炊くクライ私にもできます。
 b. 思い切って一回クライ挑戦すればいいのに。
 c. 汗で濡れるクライなら、雨に濡れるほうがました。
 d. リーダーをした経験とえば、中学時代一度学級委員長をしたクライだ。
- (4) この映像を見て泣かなかったのは君クライだよ。

4. ガイドラインとアノテーション

手順	注目点	判断基準	分類
その1	右の定型と一致する？	「同じクライ」、「疑問詞（不定語）+クライ」	1 (程度)
		「少しクライ」、「クライなら or クライだったら」	2 (低評価)
		一致しない	手順その2へ
その2	クライの直前要素は？	数詞の前に「約、およそ、だいたい」を補っても、文が自然	1 (程度)
		数詞を読み手が「少ない」という意味で低く評価しており、数詞の前に「約、およそ、だいたい」を補うと文が不自然	2 (低評価)
		数詞以外	手順その3へ
その3	クライの直前に以下のものを表現する言葉がある？ [数量、年齢、地点、距離、時間、順序、大きさ]	ある	1 (程度)
		ない	手順その4へ
その4	クライを「ホド」に置き換える、またはクライの直前に「~と同じ」を接続しても容認できる？	はい	1 (程度)
		いいえ	手順その5へ
その5	クライの直後に「~しか(い)ない」を接続、もしくはクライの直後を「~しか(い)ない」に置き換えても容認できる？（「~しか(い)なかった」、「~しか(い)なくて」なども可。）	はい	3 (限定)
		いいえ	手順その6へ
その6	次のうち最もよく当てはまるものはどれ？	「およそ、約、だいたい」を補っても文が自然。	1 (程度)
		クライを「ホド」または「程度」という言葉で置き換えても文が自然で容認できる。（なお文全体が読み手の低い評価を伴っていない、もしくは低く評価しているか判断できない。）	
		クライの直前の内容を読み手が明らかに低く評価していると判断可能	2 (低評価)
		クライを限定の助動詞「ダケ」に言い換えても文が自然。	3 (限定)

アノテーションの結果、私が考える分類を100%としたとき、被験者2名の分類との合致率はそれぞれ94%、96%となった。これにより、クライの機能を分類する明確なガイドラインを設計できたと言える。そこでこのガイドラインを「副助詞クライの新ガイドライン」として提案する。